

特集

半田市が誇る

知多牛[®]

【問合わせ】 経済課 ☎84-0636



国産牛を
もっと美味しく、
もっとお手頃に
Good Taste & Price

知多牛は、お手頃な価格で美味しい!!

『知多牛』～誕生の歴史～



知多半島の畜産は、酪農から始まっており、知多酪農発祥の地は、半田市です。その歴史は、明治17年にミツカンの中埜又左衛門氏が滋養と健康のため、自家用の乳牛を飼ったことが始まりと言われ、やがて御幸町で「ミツカン牛乳」として牛乳販売を開始することとなりました。それまで、牛は荷役用でしたが、各地で牛乳が飲まれることとなり、昭和12年、半田市に「知多牛乳」が誕生しました。平成26年まで「みどり牛乳」として地元で愛されました。

時代の流れとともに牛乳を飲む人が減少し、乳を搾っても余るようになり、牛乳の生産を減らすようになります。酪農業の元気がなくなりつつあるなか、知多半島の酪農家たちが、何とかしようと牛肉の生産に立ち上がったのです!!そうして誕生したのが、黒毛和種(肉牛)とホルスタイン種(乳牛)を掛け合わせた交雑種の「知多牛」なのです。以降、全国的にも数少ない乳肉複合経営(酪農と肉牛肥育)による効率的な生産が行われてきました。

「知多牛」という名前は、もともと市場へ出荷する際に使用していた名前だったのですが、知多半島の酪農家や酪農農業協同組合の方々が“多くの人に知多半島で生産している牛肉を知ってほしい”という熱い思いからブランド化することになり、「知多牛」の名は世間に広く知られるようになったのです。



▲知多酪農発祥の地(石碑)

以前まではJR半田駅前にありましたが、現在は、半田市酪農組合飼料配合所(平井町)にあります。